



平成30年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年1月12日

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2796 URL http://www.pharmarise.com

代表者 (役職名) 代表取締役執行役員社長 (氏名) 岩崎 哲雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員 (氏名) 秋山 昌之 (TEL) 03-3362-7130  
 四半期報告書提出予定日 平成30年1月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け) (百万円未満切捨て)

1. 平成30年5月期第2四半期の連結業績(平成29年6月1日～平成29年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年5月期第2四半期	27,232	7.9	584	241.5	526	328.3	148	—
29年5月期第2四半期	25,236	18.1	171	△65.8	122	△70.9	△111	—

(注) 包括利益 30年5月期第2四半期 83百万円(—%) 29年5月期第2四半期 △176百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年5月期第2四半期	16.41	15.85
29年5月期第2四半期	△12.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年5月期第2四半期	24,903	5,885	21.9
29年5月期	24,540	5,900	21.7

(参考) 自己資本 30年5月期第2四半期 5,446百万円 29年5月期 5,330百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
30年5月期	—	0.00			
30年5月期(予想)			—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年5月期の連結業績予想(平成29年6月1日～平成30年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,600	3.1	1,015	129.2	890	174.5	205	—	22.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年5月期2Q	9,039,050株	29年5月期	9,039,050株
② 期末自己株式数	30年5月期2Q	一株	29年5月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年5月期2Q	9,039,050株	29年5月期2Q	9,022,447株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営状態に関する説明	2
(2) 財務状態に関する説明	3
(3) 連結業務予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年6月1日～平成29年11月30日）におけるわが国経済は、先行きについて海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかに回復していくことが期待されております。

調剤薬局業界におきましては、医療費抑制等の社会的要請を背景に後発医薬品の使用拡大及びセルフメディケーションに対する取組み強化、並びに厚生労働省の発表した「患者のための薬局ビジョン」への対応が求められる中、周辺業種からの参入により競争が激化している一方、平成30年4月の診療報酬・薬価改定の影響は厳しいものと予想されており、一層の経営努力が求められる事業環境となっております。

こうしたなか、当社グループは引き続き、新規出店及びM&Aによる事業基盤の拡大、地域医療（在宅医療及び施設調剤）、後発医薬品使用拡大及び電子お薬手帳の普及・推進に取り組み、また、セルフメディケーションへの対応や健康保険制度外事業の拡大等についても継続的に推進してまいりました。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高27,232百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益584百万円（同241.5%増）、経常利益526百万円（同328.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益148百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失111百万円）となりました。

売上高につきましては、前年同四半期以降に開局等した店舗並びに前年同四半期以降に新たに当社グループに加わった有限会社イノセ商事、株式会社エム・シー及び株式会社ミュートスが増収に寄与しました。

また、利益面では、物販事業は引き続き採算改善の途上にあるものの、着実な技術料算定増加等による処方せん単価の向上等により、営業利益は増益となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

当第2四半期連結累計期間における調剤薬局店舗は、6店舗増加、1店舗減少で、当第2四半期連結累計期間末時点において当社グループが運営する店舗数は260店舗となりました。増加した店舗は、ファーマライズ株式会社が経営する宮城県の1店舗、千葉県の2店舗、及び石川県の1店舗、並びに、北海道ファーマライズ株式会社が経営する北海道の1店舗、薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社が経営する千葉県の1店舗であります。

薬局運営面につきましては、選ばれる「かかりつけ薬局」となるために、①地域医療（在宅医療及び施設調剤）の実施、②後発医薬品推進、③患者情報の一元管理や重複投与・飲み合わせ・残薬確認強化の観点から電子お薬手帳「ポケットファーマシー」の利用促進、④24時間対応に向けた取組みを継続しております。

また、一般用医薬品や健康食品等のセルフメディケーション関連商品の販売及び健康支援イベント等も実施するセルフメディケーション・サポート店舗の展開に対する取組みも、継続的に推進しております。

これらにより、当第2四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、売上高は21,565百万円（前年同期比6.4%増）、セグメント利益は839百万円（同122.4%増）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におきましては、経営資源を集約し経営の効率化と事業基盤の一層の強化を図るため、平成29年6月1日付で、株式会社鬼怒川調剤センター（栃木県1店舗）について、ファーマライズ株式会社を存続会社として吸収合併しました。

#### (物販事業)

物販事業の主な内容は、薬ヒグチ&ファーマライズ株式会社によるドラッグストア等の運営事業、北海道ファーマライズ株式会社による化粧品等販売事業、及び新世薬品株式会社によるコンビニエンスストア運営事業であります。

本事業における当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は4,787百万円（前年同期比14.9%増）、セグメント損失は145百万円（前年同四半期はセグメント損失148百万円）となりました。当該損失は、コンビニエンスストア及びドラッグストアの運営事業が依然採算改善の途上にあることが主な要因であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における調剤を併設しない本セグメントの店舗数は2店舗増加、7店舗減少で、当第2四半期連結累計期間末時点において当グループが運営する店舗数は57店舗となりました。

#### (医学資料保管・管理事業)

医学資料保管・管理事業は、調剤薬局事業の周辺業務として、株式会社寿データバンクが手掛ける紙カルテやレントゲンフィルム等の保管・管理事業であります。現時点で医学資料の保管・管理に対する需要は継続的に発生しておりますが、保管年数の短縮化等、経費削減の動きが徐々に発生してきており、新規需要の獲得に向け積極的な営業活動を展開しております。

このような環境下、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は365百万円（前年同期比2.2%減）、セグメント利益は64百万円（同13.1%増）となりました。

(医療モール経営事業)

医療モール経営事業は、北海道ファーマライズ株式会社がJR札幌駅内の「JRタワーオフィスプラザさっぽろ」で運営している医療モールに係る事業です。

医療モール経営事業における当第2四半期連結累計期間の業績は堅調に推移しており、売上高は256百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益は61百万円（同10.4%減）となりました。

(その他)

その他の事業の主な内容は、株式会社ミュートスで行っている製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等、ファーマライズ株式会社の子会社である株式会社レイケアセンターによる人材派遣事業、新世薬品株式会社で行っている文具等の販売事業等であります。

その他の事業における当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は257百万円（前年同期比46.7%増）、セグメント損失は5百万円（前年同四半期はセグメント損失1百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は24,903百万円となり、前連結会計年度末残高24,540百万円に対し、362百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の残高が減少した一方で、売上債権（「売掛金」と「未収入金」の合計）が増加したことによるものであります。

(負債)

負債の残高は19,017百万円となり、前連結会計年度末残高18,639百万円に対し、377百万円増加いたしました。主な要因は借入金と未払法人税等の増加によるものであります。

(純資産)

純資産の残高は5,885百万円となり、前連結会計年度末残高5,900百万円に対し、14百万円減少いたしました。この主な要因は、連結子会社に対する持分比率増加に伴い非支配株主持分が減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、2,653百万円（前年同期比498百万円の減少）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果減少した資金は、485百万円（前年同期は477百万円の収入）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益を466百万円、減価償却費を312百万円、減損損失を61百万円、のれん償却額を352百万円計上した一方で、売上債権が1,488百万円増加し、法人税等の支払額が230百万円となったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、340百万円（前年同期比83百万円増加）となりました。この主な要因は、新規開局等に伴う有形固定資産の取得による支出が174百万円、貸付による支出が33百万円、差入保証金の差入による支出が40百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が131百万円あった一方で、貸付金の回収による収入が20百万円、差入保証金の回収による収入が68百万円となったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果減少した資金は、255百万円（前年同期は387百万円の支出）となりました。この主な要因は、短期借入金の純増額が100百万円、長期借入れによる収入が1,600百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出が1,646百万円、社債の償還による支出が77百万円、リース債務の返済による支出が106百万円、配当金の支払額が125百万円となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年7月14日付の決算短信で公表いたしました平成30年5月期の連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,745	2,663
売掛金	851	909
商品及び製品	2,186	2,223
未収入金	1,027	2,492
その他	614	604
貸倒引当金	△63	△61
流動資産合計	8,361	8,832
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,573	3,613
土地	2,623	2,625
その他（純額）	813	668
有形固定資産合計	7,011	6,907
無形固定資産		
のれん	5,902	5,753
その他	268	353
無形固定資産合計	6,170	6,107
投資その他の資産		
差入保証金	1,601	1,583
その他	1,547	1,624
貸倒引当金	△159	△159
投資その他の資産合計	2,988	3,048
固定資産合計	16,169	16,062
繰延資産	9	8
資産合計	24,540	24,903

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,402	5,342
短期借入金	—	100
1年内償還予定の社債	154	154
1年内返済予定の長期借入金	2,698	2,970
未払法人税等	226	412
賞与引当金	90	122
その他	1,230	1,295
流動負債合計	9,801	10,397
固定負債		
社債	463	386
長期借入金	7,044	6,802
退職給付に係る負債	485	538
その他	845	892
固定負債合計	8,838	8,619
負債合計	18,639	19,017
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,174	1,174
資本剰余金	1,160	1,252
利益剰余金	3,008	3,029
株主資本合計	5,342	5,456
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	1
退職給付に係る調整累計額	△14	△10
その他の包括利益累計額合計	△12	△9
新株予約権	112	140
非支配株主持分	458	298
純資産合計	5,900	5,885
負債純資産合計	24,540	24,903

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年11月30日)
売上高	25,236	27,232
売上原価	21,802	23,243
売上総利益	3,434	3,989
販売費及び一般管理費	3,263	3,404
営業利益	171	584
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	1	0
物品売却益	12	9
受取賃貸料	8	11
貸倒引当金戻入額	37	2
その他	60	31
営業外収益合計	121	58
営業外費用		
支払利息	66	55
持分法による投資損失	51	28
支払手数料	6	1
休止固定資産費用	10	8
その他	34	22
営業外費用合計	169	116
経常利益	122	526
特別利益		
固定資産売却益	2	—
投資有価証券売却益	—	1
特別利益合計	2	1
特別損失		
減損損失	27	61
固定資産除却損	3	0
特別損失合計	31	61
税金等調整前四半期純利益	93	466
法人税等	271	386
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△178	79
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△66	△68
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△111	148



四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△178	79
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△0
退職給付に係る調整額	4	3
その他の包括利益合計	1	3
四半期包括利益	△176	83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△109	151
非支配株主に係る四半期包括利益	△67	△68

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	93	466
減価償却費	303	312
減損損失	27	61
のれん償却額	320	352
株式報酬費用	29	28
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△68	△1
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	28	27
受取利息及び受取配当金	△3	△3
支払利息	66	55
固定資産除却損	3	0
固定資産売却損益(△は益)	△0	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△1
持分法による投資損益(△は益)	51	28
売上債権の増減額(△は増加)	1,037	△1,488
たな卸資産の増減額(△は増加)	△110	△23
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,056	△68
その他	53	2
小計	776	△252
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△68	△56
法人税等の支払額	△252	△230
法人税等の還付額	19	52
営業活動によるキャッシュ・フロー	477	△485
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△5	△0
定期預金の払戻による収入	9	10
有形固定資産の取得による支出	△307	△174
有形固定資産の売却による収入	0	—
無形固定資産の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の取得による支出	△0	△5
投資有価証券の売却による収入	0	5
差入保証金の差入による支出	△32	△40
差入保証金の回収による収入	142	68
貸付けによる支出	△58	△33
貸付金の回収による収入	16	20
事業譲渡による収入	3	—
事業譲受による支出	△18	—
預り保証金の返還による支出	△29	△9
預り保証金の受入による収入	1	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△131
その他	23	△51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△256	△340

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月1日 至平成28年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月1日 至平成29年11月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	98	100
長期借入れによる収入	2,010	1,600
長期借入金の返済による支出	△2,131	△1,646
リース債務の返済による支出	△82	△106
社債の償還による支出	△157	△77
株式の発行による収入	0	—
配当金の支払額	△125	△125
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△387</b>	<b>△255</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△167	△1,081
現金及び現金同等物の期首残高	3,319	3,734
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,152	2,653

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年6月1日 至 平成29年11月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年6月1日至平成28年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・管 理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	20,264	4,166	374	255	25,061	175	25,236	—	25,236
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	20,264	4,166	374	255	25,061	175	25,236	—	25,236
セグメント利益又は損失 (△)	377	△148	56	69	354	△1	353	△182	171

- (注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、及び文具等の販売事業等が含まれております。  
 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△182百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年6月1日至平成29年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・管 理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	21,565	4,787	365	256	26,975	257	27,232	—	27,232
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	21,565	4,787	365	256	26,975	257	27,232	—	27,232
セグメント利益又は損失 (△)	839	△145	64	61	820	△5	814	△230	584

- (注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、文具等の販売事業及び製薬企業等向けのシステム  
 インテグレーション事業等が含まれております。  
 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△230百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業及び物販事業において、減損損失をそれぞれ49百万円、11百万円計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては61百万円であります。